



〒430-8691
静岡県浜松市中区中央三丁目8番35号
資本金 5,445万円
設立 1907年2月
従業員数 125名
<https://www.hamamatsu-soko.co.jp/>



1907年(明治40年)に創業。静岡県浜松市を地盤にした老舗の倉庫会社として、「正確に、迅速に、親切に」をモットーに、倉庫・物流の基幹業務をベースに総合物流事業を展開している。

導入機器

無線 LAN コントローラ [SmartZone100]
屋内アクセスポイント [ZoneFlex R510]
屋外アクセスポイント [ZoneFlex T300]

導入のポイント

レイアウトの変更が頻繁に発生する倉庫内においても、優れたアンテナ力によって安定した通信を実現



ラッカス製品によって無線 LAN 化



ハンディターミナルで作業する女性スタッフ



(左から) 浜松倉庫の伊藤浩嗣氏と長谷川敬之氏、TOKAI コミュニケーションズの村上智哉氏、豊田自動織機 ITソリューションズの久保祐貴氏

レイアウトが変わる倉庫内での安定した無線通信が倉庫管理システムのリアルタイム情報提供を支える

倉庫・運送事業をベースにした総合物流事業に加え、駐車場運営、地ビールレストランなど、幅広い事業を展開する浜松倉庫。同社は、業務効率化による働き方改革の実現と、荷主、顧客のニーズに応じた高度なサービスをタイムリーに提供することを目指して、2018年11月に新たな倉庫管理システム「MarukuraSEIJI's Logistics System (通称: SEIJI)」の本格稼働を開始した。SEIJIの核として採用されたラッカスの無線 LAN ソリューションは、レイアウトの変更が頻繁に発生する倉庫内においても安定した通信を実現。SEIJIの稼働で社員の残業時間が3～4割程度削減し、無線 LAN を通じたリアルタイムのデータ連携によって、荷物の入出庫や在庫の状況が即座にウェブ上で把握可能となった。さらに、顧客へも専用ウェブで情報提供するとともに、集積した倉庫状況のデータ分析結果を提供することで、営業力強化にも貢献している。

導入前の課題

システム化によるデータ管理が、会社の生き残りに不可欠という強い危機感

創業から110年以上もの歴史を持ち、地域に根差した企業として着実に発展を遂げてきた浜松倉庫。同社は、物流会社では珍しく従業員の96%を正社員が占めており、平均年齢も36歳と若い。また、15年ほど前から倉庫現場の女性従業員の採用をスタートし、現在ではフォークリフト作業者の約4分の1を女性従業員が占めるなど、現場での女性比率が圧倒的に高いことも特長とする。その浜松倉庫の課題は、物流倉庫業界が倉庫業から総合物流業への転換を進めた大手と、地場の倉庫会社との2極化が進んで、厳しい競争にさらされていたということだった。

「業務を変革し、お客様のニーズに応じた高度なサービスをタイムリーに提供する仕組みがなければ、会社の生き残りが図れないという強い危機感がありました。そのためにも、入出庫の状況把握など倉庫内の管理を担う社内の IT システム基盤を再構築することが不可欠と考えました」と伊藤浩嗣経営企画室室長は振り返る。

以前のシステムは、現在の物流倉庫業界に求められるニーズに対応できるものではなくっていた。システムから取得できる入出庫などのデータには、タイムラグがある。また、そのデータから業務量を予測し、人員の適切な配分などを行うには、ベテランの勤に依存せざるを得なかった。

このような属人化した業務の状況を変えるべく、中山彰人社長が若手管理職を中心に20代後半から30代のメンバーを抜擢し、2016年7月にスタートしたのが社内プロジェクトである。



浜松倉庫
経営企画室
室長
伊藤 浩嗣 氏



浜松倉庫
経営企画室
係長
長谷川 敬之 氏



TOKAI コミュニケーションズ
法人営業本部 中日本事業部
村上 智哉 氏

お問い合わせ先

ネットワンパートナーズ株式会社

本社
〒100-7024 東京都丸の内二丁目7番2号 JPタワー
TEL 03-6256-0700 (代表)

西日本営業部
〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原三丁目5-36
新大阪トラストタワー
TEL 06-6105-0356 (代表)

www.netone-pa.co.jp

 TOKAIコミュニケーションズ



株式会社豊田自動織機
ITソリューションズ

Copyright ©2019, Net One Partners, Inc. All Rights Reserved.
Ruckus Networks an ARRIS companyおよびデザインは米国特許商標局で登録されています。

ZoneFlex, SmartZoneは、米国およびその他の国におけるRuckus Networks an ARRIS companyの商標です。
この文章またはウェブサイトに記載されているその他すべての商標は、各所有者の専有財産です。

導入の経緯

レイアウトが頻繁に変わる環境に対応する「アンテナ力」を高く評価

プロジェクトでは課題を、業務のスリム化(事務所)、お客様へのタイムリーな情報提供による営業力強化(営業)、品質向上(現場)の3点に集約して取り組みを推進した。

「新システム開発のポイントは、倉庫を無線LAN化して全商品のバーコードによる管理体制を構築すること、センターを見える化し、ペーパーレスで情報をデータ化して品質向上とリアルタイム性を実現することでした」とプロジェクトマネージャーを務めた伊藤室長は語る。

この要件を実現するため、複数のベンダーから提案を募り、豊田自動織機ITソリューションズを選定した。「正直に言えば、他社提案にはコストが安価なものもありました。しかし、豊田自動織機ITソリューションズ様は、当社の現場を深く理解した上で、柔軟性の高いシステムを提案してくれました」と伊藤室長。

豊田自動織機ITソリューションズの久保祐貴氏は、「誰でも、すぐに理解し、容易に作業ができるようにするという浜松倉庫様のご要望に沿うよう、ベストな機器で構成するソリューションを提案しました」と語る。特に大きなポイントが、インフラの核となる無線LANネットワーク。少数のアクセスポイントで広いエリアをカバーできるラッカスの無線機器であった。

長谷川敬之経営企画室係長は、「アクセスポイントの設置場所、アンテナの角度、それによるカバーエリアなどを可視化して示してくれたことで、非常に説得力がありました」と語る。

豊田自動織機ITソリューションズと協業し、無線LANの構築を担当したTOKAIコミュニケーションズの村上智哉氏は「ラッカス製品は、アンテナの電波強度が大きな魅力でした。独自アンテナ技術で指向性のある電波をクライアントの環境に合わせ調整するため、電波干渉に強く安定した通信が可能です。設定に当たっては、ネットワンパートナーズ様の技術的なサポートとアドバイスがとても役立ちました」と説明する。

久保氏は、「設定変更はリモートで可能なため手間が掛かりません。オンサイトで実施することと比較すると相当な作業負荷の軽減につながっています」と管理面を高く評価する。

「ネットワークの停止は、業務自体を止めることになります。ラッカス製品は熱に強く、去年は気温が高い日もあり心配しましたが、トラブルは一度もありませんでした」と長谷川係長は驚きを隠さない。

導入効果

入力作業の削減とリアルタイムの情報把握で、残業時間が約4割削減

2017年3月に構築をスタートした新倉庫管理システム「MarukuraSEIJI's Logistics System(通称:SEIJI)」は、既存システムとの連携と倉庫現場のハンディターミナルやラベルプリンタなどを活用したシステム基盤の構築を進めて、2018年9月より順次稼働を開始。11月に本稼働を開始した。

SEIJIの稼働で、商品のバーコード管理とともに、入庫の状況をリアルタイムで把握可能となり、全社で情報を共有することで、作業が遅れているところへ人を配置するなどのフレキシブルな対応が可能になった。

「事務所の入力作業が大幅に削減しました。出荷伝票やピッキングリスト、入庫報告書などのペーパーレス化が進展しました。結果、事務所・現場の従業員ともに、残業時間が平均で3~4割は削減しています(伊藤室長)。さらに、空いた時間はデータ分析などのクリエイティブな業務を担当できるようになり、業務効率と生産性の向上に貢献している。

営業面では、顧客に対してリアルタイムに情報を提供する「荷主様専用Web」を用意。顧客はウェブを通じて荷物の入庫や在庫状況、荷動きなどが、リアルタイムに把握できる。さらに、倉庫状況のデータを集積して、その分析結果を「物流KPI」として提供することで、顧客の物流改善への提案につなげている。

もう一つのメリットが品質向上である。新システムでは、無線LANを使いハンディターミナルでリアルタイムにチェック可能となったことで、誤出荷ゼロが実現した。

「現場と事務所との垣根がなくなったという副次的な効果も出ています。コミュニケーションが活発化し、お互いの業務に対する気付き、改善提案も頻繁に行われるようになってきました」と伊藤室長は強調する。

今後の展開

AIの活用や作業のロボット導入で自律型倉庫を目指す

今回のプロジェクトは、働き方改革となる残業時間の削減も含め、人材採用の下地にもなっているという。

「豊田自動織機ITソリューションズ様は、できないことを安請け合いをせずに代案を示してくれたり、われわれにとって耳の痛い意見を言ってくれるなど、パートナーとして接してくれました。当社のメンバーも大きく成長し、考える力が上がってきたと実感しています(伊藤室長)。

今後は、7月にオープンする新しい拠点での無線化を展開して行く計画である。

「さらにSEIJIをベースとして、AIの活用や作業のロボット導入など、積極的な改善を積み重ねて、ゆくゆくは自律型の倉庫の実現を目指していきたいと考えています」と伊藤室長は抱負を語る。